



広報資料

問い合わせ先

第一管区海上保安本部

海洋情報部 監理課長 坂本 平治

0134-27-0118 (内線2510)

海氷情報センターの開所について ～開設50年目のシーズンがスタート～

第一管区海上保安本部では、オホーツク海をはじめ北海道周辺海域の海氷が発生する海域を航行する船舶の海難事故を防止するため、「海氷情報センター」(所長：第一管区海上保安本部次長 森 征人)を12月20日(金)に開所します。

昭和45年に設置して以来(別紙【資料1】参照)今年で50年目のシーズンを迎える「海氷情報センター」では、航空機・巡視船艇及び事務所による海氷観測のほか、協力機関から情報を収集し、海氷速報や航行警報等で海氷の分布状況等の情報提供を行います(別紙【資料2】参照)。

1. 海氷情報の収集

当本部が行う海氷観測情報のほか、協力機関から情報を収集します。

(1) 当本部の海氷観測情報(別紙【資料3】参照)

ア 航空機・巡視船艇による目視観測を随時実施

イ 事務所(稚内、紋別、根室、網走、羅臼、花咲)で目視観測を毎日実施

(2) 協力機関の海氷観測情報

ア 気象庁、宇宙航空研究開発機構(JAXA)及び大学が解析した人工衛星画像

イ 陸上施設や船舶による目視観測

2. 海氷情報の提供

海氷観測情報を一元的に集約、分析・整理し、海氷速報や航行警報等により海氷の分布状況等を提供します。

海氷情報の内容

ア 海氷速報(インターネット)【日本語・英語・ロシア語】

北緯46度(サハリン南端)付近に海氷が南下するまで、位置を文字情報で提供

北緯46度付近に海氷が初めて達した日以降、位置を分布図として毎日提供

イ 緊急性の高い海氷情報(航行警報、AIS、海の安全情報)【日本語・英語】

船舶の航行安全の上で緊急性の高い海氷の情報については、航行船舶に対し航行警報として無線放送及びインターネットでの提供に加え、AIS(船舶自動識別装置)及び海の安全情報で随時提供

海氷情報センターwebページ

URL <https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN1/1center.html>

3．近年の海氷海難

- (1) 平成30年2月に紋別沖で外国船が航行不能となる海難が発生して以降、海氷に起因する海難は発生していません。
- (2) 平成12年3月以降、海氷に起因した死亡または行方不明海難は発生していません。
- (3) 昭和30年から現在まで海氷に起因する海難の延べ隻数は368隻、死亡・行方不明者は52名です。

4．開所式取材のご案内

今季の海氷情報センターの開所にあたり開所式を行いますので、下記のとおり取材のご案内をいたします。

(1) 日時・場所

令和元年12月20日(金) 午前10時30分から
小樽地方合同庁舎 5階海洋情報部執務室

(2) 実施内容

- ・海氷情報センター開所式
- ・海氷情報センター業務概要説明

(3) 取材希望について

取材を希望される報道機関は、12月19日(木)正午までに広報・地域連携室までご連絡ください。

広報・地域連携室 0134-27-0118(代表)

海水情報センター開設の経緯

択捉島 単冠湾(ひとかっぱわん) の漁船集団海難を契機に開設

【海難概要】

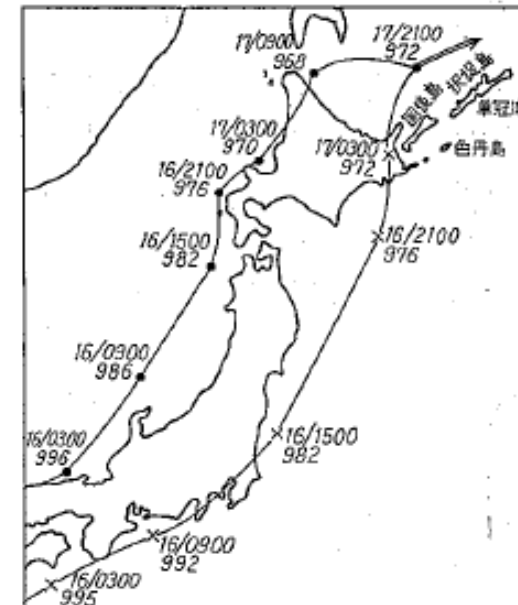
発生日:昭和45年(1970年)3月17日
 概要:択捉島南方において操業中の沖合底引漁船19隻は発達した低気圧による大時化を避けるため、択捉島単冠湾に錨泊した。
 この低気圧は、台湾南方海上で発生した低気圧と九州北岸の別の低気圧が日本列島を挟む形でそれぞれ発達し、3月17日にはオホーツク海で1つとなりゆっくり東北東に進んだ。
 また、この年の流氷は例年になく優勢で、1月中旬に太平洋側へ流出が始まり、水温が低かったため流氷は溶けずに南下し拡張していた。
 これらの条件が重なり、太平洋に南下していた流氷群は低気圧の接近に伴う強い東南東の風により択捉島南岸に吹き寄せられ、大時化の中で圧着集積して3~4ノットの異常な速度で単冠湾に流れ込んだ。
 錨泊中の漁船のうち1隻は強風のため走錨圧流され陸岸に乗り上げ大破した。11隻は船体損傷を受けながらも自力で流氷群の外へ脱出したが、逃げ遅れた7隻のうち、流氷による損傷及び強風による船上への流氷の打ち込み等により2隻が転覆、3隻が沈没し、2隻は後日、曳航救助された。
 大破した漁船を含めた遭難漁船8隻の乗組員114名のうち、30名が死亡または行方不明となった。

【海難発生場所】



【低気圧経路図】

S45.3.16~18



流氷観測通報体制の強化

北方水域における海水の分布及び動向を迅速、かつ、的確に把握のうえこれを周知し、もって当該水域における海難の防止に資する。 → 流氷情報センターの開設を11月に決定。

昭和45年12月20日 **流氷情報センター開所**

平成19年12月、「流氷情報センター」を「海水情報センター」に名称変更

海水情報センターの業務(情報収集と情報提供)



第一管区が行う海水観測について

1 航空機による海水観測

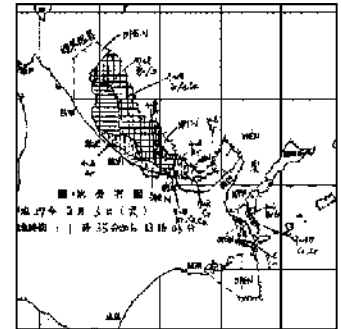
- (1) 観測海域：オホーツク海南西海域など
- (2) 観測時期：12月～4月
- (3) 観測概要： 海水域を飛行する航空機による目視観測の随時実施
千歳航空基地所属固定翼機へ当本部職員が同乗し、
目視観測（スケッチ）及び写真撮影を随時実施



海水観測中の航空機



観測中の職員



目視観測(スケッチ)図

2 巡視船艇による海水観測

- (1) 観測海域：オホーツク海南西海域など
- (2) 観測時期：1月～4月
- (3) 観測概要： 海水域を航行する巡視船艇による目視観測の随時実施
巡視船そうやへ当本部職員が同乗し、搭載航空機による
目視観測（スケッチ）及び写真撮影、流向流速計による
流況調査、水温塩分計による調査を2月頃に実施



海水観測中の巡視船そうや



搭載航空機による海水観測



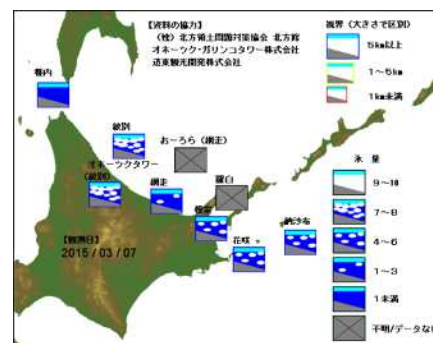
流向流速計による調査

3 事務所による海水観測

- (1) 実施場所：稚内、紋別、根室、網走、羅臼、花咲
- (2) 観測時期：12月～4月
- (3) 観測概要：事務所から海水目視観測を原則毎日正午に実施



イメージ写真(紋別港沖の海水)



観測結果は沿岸観測状況として
毎日ホームページに掲載